



5 Potential Pitfalls of Low Code

(and how to avoid them)

ローコード開発の
5つの落とし穴と回避策



誰もがローコードに注目しているが、 その名が示すように本当に簡単なのだろうか？

Forrester Research社は、今年、全アプリケーション開発の75%がローコードプラットフォームまたはノーコードプラットフォームで行われると予測しています。ローコード開発市場は10年前に形成され始めたばかりだが、つい昨年の時点でソフトウェア開発の44パーセントを占めています。

フォレスターはまた、ローコードまたはノーコード開発に切り替えた企業は、パンデミックによって引き起こされた急速に変化するビジネス環境にうまく対応し、より効果的に対処していることを明らかにしました。

ローコードは、業務のデジタル化と近代化を実現する魔法のソリューションとして多くの人々に歓迎され、一夜にして主流となりました。

この劇的な変化により、企業はローコードムーブメントに参加するようになりましたが、批評家や懐疑論者は、新規参入を阻む5つの潜在的な落とし穴を指摘しています(しかし、我々はそれを阻止すべきではないと信じています!)

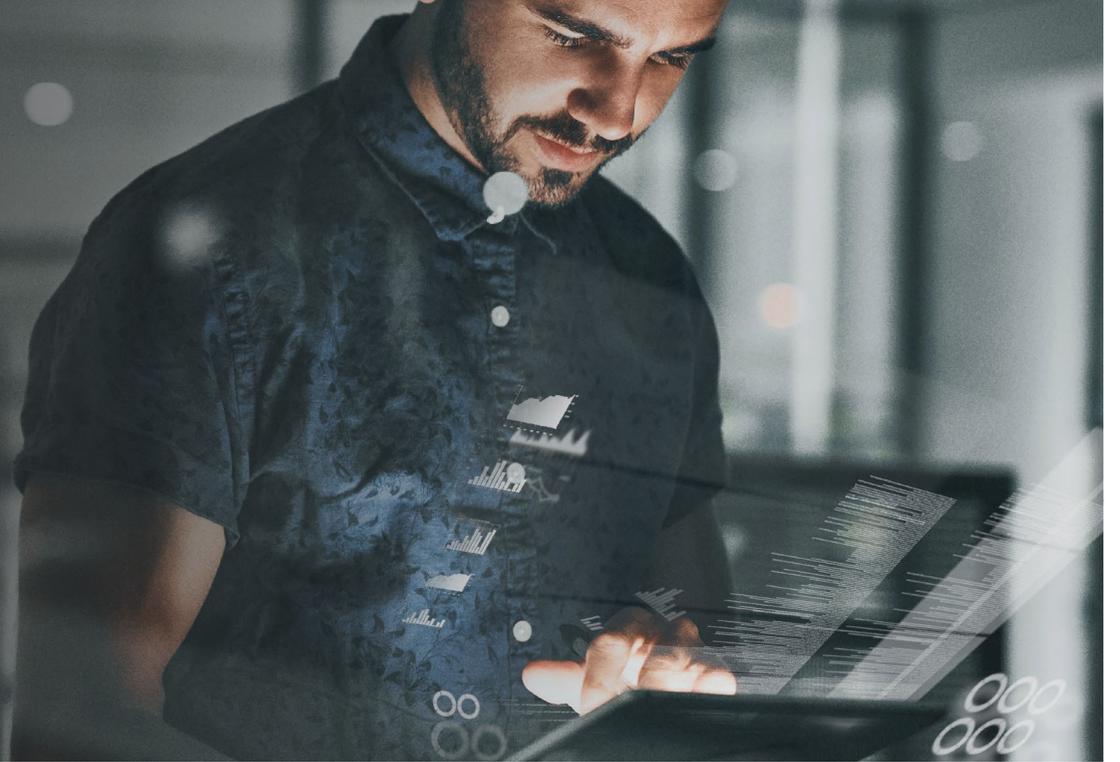
落とし穴のその1

1. カスタマイズ できない

ローコードに懐疑的な人たちの意見

ローコードでは、あらかじめ決められた範囲内の部品や仕組みやデザインを使います。

速くて簡単ですが、自由度や柔軟性は制限されるため、カスタムコードを追加して機能を変更したり、機能を微調整したりすることはできません。



落とし穴を回避するには

今日のローコードプラットフォームには、幅広い機能を持つ複雑なアプリをカスタマイズして開発するための、ほぼ無限のオプションが含まれています。

そうなる問題は、組織のニーズに適したローコードプラットフォームを選択することです。

例えば、マルチエクスペリエンスアプリのための業界をリードするローコードプラットフォームである HCL Volt MX には、基本アーキテクチャを強化・拡張してアプリをカスタマイズする方法が多数用意されています。ローコードのビジュアルアセンブリ環境には、プレート、マスター、コントローラ拡張、ダイナミックビュー、および

カスタマーコントローラタイプが含まれています。消費者向けの軽量アプリから、最も複雑な要件を持つエンタープライズグレードのシステムまで、クロスプラットフォームの開発を簡素化します。

落とし穴のその2

2. セキュリティとスケーラビリティの懸念

ローコードベンダーと契約すると、セキュリティとデータプライバシーを完全にベンダーに依存することになります。手遅れになるまで、自分の脆弱性を知ることができません。さらに、制限されたプラットフォームは、ソフトウェア開発のスケーラビリティを阻害することになります。

落とし穴を回避するには

開発時および実行時のスケーラビリティは、実はローコードで実現する方が簡単です。企業はこのツールを使うことで複数のアプリケーションを同時に開発し、バックログをなくし、プロセスを自動化し、最終的にデジタルトランスフォーメーションを促進することができ、デジタルトランスフォーメーションが促進されます。

正しい組織的アプローチは、市民とプロの開発者の両方に権限を与えること、企業全体のコラボレーション、スキルアップとオンボーディングの容易さ、企業の開発ニーズに沿った拡張性などのローコードの理念を活用するのに役立ちます。

同時にローコードは、アプリが大量のユーザーを確実に処理し、複雑な操作を実行する能力であるランタイムスケーラビリティにも役立ちます。ローコードの自動化ツール、クラウドネイティブ、統合された DevOps がここで生きてくるのです。

スケーラビリティは簡単に対処できる問題ですが、セキュリティとプライバシーはローコードベンダーに依存するため、プラットフォームを選択する際には十分に注意する必要があります。

例えば、Volt MX は、データと ID 保護のためのエンタープライズグレードのセキュリティ認証と、アプリとバックエンドのためのマルチレイヤーのセキュリティを備えており、ワンクリックで有効にすることができます。また、ワンクリックで実行できるアプリケーションとバックエンドの多層的なセキュリティも備えています。

また、アプリケーションの開発と導入の安全性を確保するために、改ざん防止、ホワイトボックス暗号、OWASP Top 10 保護などの機能が用意されています。

3. 連携・統合が複雑

ローコードに懐疑的な人たちの意見

サードパーティーのサービスをモバイルアプリなどに統合することは、消費者向けのソフトウェア開発では必須です。また、バックエンドのデータを統合し、常に同期させておくことも必要です。しかし、ローコードプラットフォームは独自のブラックボックスであり、ベンダーロックインが発生します。ローコードプラットフォームがフルスタックアプリのあらゆる統合をサポートすることは困難であり、その制限を回避しようとすることはほとんど不可能な作業となります。

落とし穴を回避するには

今日のローコードプラットフォームには、幅広い機能を持つ複雑なアプリケーションをカスタマイズして開発するための、ほぼ無限のオプションが含まれています。

それは、組織のニーズに適したローコードプラットフォームを選択することです。

例えば、マルチエクスペリエンスアプリのための業界をリードするローコードプラットフォームである HCL Volt MX には、基本アーキテクチャを強化・拡張してアプリをカスタマイズする方法が多数用意されています。ローコードのビジュアルアセンブリ環境には、テン

プレート、マスター、コントローラ拡張、ダイナミックビュー、およびカスタマーコントローラタイプが含まれています。消費者向けの軽量アプリから、最も複雑な要件を持つエンタープライズグレードのシステムまで、クロスプラットフォームの開発を簡素化します。

4. シャドウ IT

ローコードでは、IT 部門を入れることなく、どの社員でも特定の問題を解決するためのアプリを簡単に構築してデプロイすることができます。これがシャドウ IT の基本的な定義であり、ローコードプラットフォームを広く採用した後に、シャドウ IT が制御不能になることを意味する。シャドウ IT のリスクは深刻で、セキュリティ侵害、リソースの浪費、データの破損、さらには企業システム全体の崩壊も考えられます。

落とし穴を回避するには

ローコードプラットフォームを採用する場合、開発に使用するツールにかかわらず、アプリガバナンスとメンテナンスプランの必要性があります。ローコードであろうとノーコードであろうと、技術的負債を抱え込んでしまい、長期的な管理が難しくなる可能性があります。

注目すべきは、Volt MX のような DevOps/CI/CD に対応したツールです。Volt MX が持つセキュリティ機能(前述)があれば、問題ないでしょう。

ローコードは、IT 部門が、会社が承認したプラットフォームで同僚が作ったアプリを管理およびサポートするのに役立ち、セキュリティ侵害や断片化したデータベースの危険性を排除します。私たちは、Volt MX が顧客のアプリセンター・オブ・エクセレンスに導入され、ローコード開発アプローチによるアプリパイプラインの管理を支援しているのを見たことがあります。

5. テストとメンテナンスは「後回し」

一部のローコード懐疑論者の意見

ローコード プラットフォームは、アプリを迅速に構築することを目的としています。その結果、自動テスト機能は今ひとつといったことがよくあります。開発者は迅速な配信に集中することを余儀なくされ、コンポーネントや負荷テストのことを忘れてしまう可能性があります。また、すべての新しいソフトウェアを手動で保守することに圧倒されている可能性があります。

落とし穴を回避するには

しかし、それはやはり、現実の世界ではそうではありません。

例えば HCL Volt MX は、プロトタイピングから構築、デプロイ、デバッグ、メンテナンスまで、アプリ開発の全段階をサポートします。アプリのライフサイクルを通じて、継続的なテストやその他のアジャイル自動化プロセスを実装しています。

同様に、Volt MX は、コンテナとマイクロサービスベースのデプロイメントアーキテクチャにより、メンテナンスとインフラのコストを下

げ、柔軟性とスケーラビリティを向上させます。パフォーマンスの監視、アップデート、デバッグ、その他のメンテナンス作業は自動化され、合理化されており、開発者が手作業や退屈なコードいじりに追われることはありません。

結論

ローコード開発にはあらゆる利点がありますが、プロの開発者チームに取って代わるものではなく、彼らの仕事を補完し、強化するものであることは確かです。

ローコード開発は、DXの旅を始めたい、あるいはDXを始めようとする企業にとってかけがえのないツールです。

HCL Volt MX の詳細

HCL Volt MX は、業界をリードするモバイルおよび PCR 向けのローコードプラットフォームであり、企業がアプリを構築し、あらゆるデジタルタッチポイントで魅力的な体験を迅速に生み出すことを支援します。詳細は以下のページをご覧ください。

製品ページ：<https://www.hcljapan.co.jp/software/products/volt-mx/>

無償トライアル：<https://www.hcljapan.co.jp/software/products/volt-mx/hcl-volt-mx-trial/>

学習・認定コース：<https://www.hcljapan.co.jp/software/hclsoftwareu/>